

労力かけずに新たな発見、最適な外来配置の参考に—貝塚病院

日本病院会が「見える化」の主軸として推進する「出来高病院経営支援事業（略称：JHAstis=ジャスティス）」。事例紹介として、福岡県の「貝塚病院」の事例をご紹介します。JHAstis の経営分析レポートについて同院は、曜日別に分析データを作成することがなかったことから、「最適な外来配置の参考になる」と評価。新たな切り口でのデータ作成に労力はつきものですが、その手間と時間を省き、新たな発見を手に入れられるところにメリットを見出しています。

地域包括ケアシステムを推進する急性期病院

貝塚病院は、「地域の健康を支える」を基本理念に、急性期病院として展開する一方、地域包括ケアシステムの担当ブロックにおける事務局病院としても活躍しています。病床数は199床（一般病棟：109床、地域包括ケア病棟：34床、障害者施設等一般病棟：56床）で、4月に著名な乳腺外科医を迎えて「乳腺外科」を新設。2016年秋には地域包括ケア病床の増床も計画中です。地域包括ケアシステムの展開では、同年7月に訪問診療と訪問看護、居宅介護支援の機能を束ねた「在宅医療部」を新設しました。

病院の規模拡大と地域医療の充実に進む同院の目下の課題は、「中堅層に当たる人材の獲得・育成とさらなるコスト削減」（理事長付経営企画室室長の石田和範氏）。中堅の人材の層が厚くなることは業務の効率化を推進しますし、コスト削減による最適な利益の捻出で、さらなる拡大策を打って出ることができるからです。そのため、同院では業務の改善に向けたデータ分析をすでに推進しており、2016年8月現在、DPC 準備病院としてDPC データ分析に力を注いでいます。そうした中で、レセプトデータの分析ツールにも興味を抱き、今回のJHAstis の募集案内を見て、参加を決めました。

曜日別データに着目

貝塚病院ではまず、月次レポートに曜日別データが掲載されていることに着目。「これまで、曜日別のデータは出してこなかったが、曜日別で件数にバラつきがあることが分かったので、今後の人員配置の最適化の参考になる」（診療情報管理士で診療情報管理室主任の北村和洋氏）。

診療情報管理室主任の北村和洋氏



また、こうした新たな切り口でデータ分析する際には、あれこれと追加で新たなデータが必要であることが発覚するなどして、煩雑な業務が発生しがちです。しかし、JHAstisであれば、支払基金に提出するデータをそのまま利用できるのもので、その結果、「手間と時間を省くことができる」（北村氏）ことにつながります。